

「YOUNG MAN」に出てくる Y. M. C. A とは？

西城秀樹のヒット曲「YOUNG MAN」に YMCA が何回も出てきます。

YMCA というのは、**Young Men's Christian Association**（キリスト教青年会）というプロテスタント系キリスト教団体の名称です。

青年の道徳的荒廃を、キリスト教を通じて救済する目的で創設されました。

でもその YMCA が、なぜこの歌に出てくるのか？

へんやなあ、と私はずっと前から思っていました。

「YOUNG MAN」の練習が始まるのを機会に、これについて調べました。

「YOUNG MAN」は、もともと「YMCA」というアメリカのヒット曲のカバーです。原曲を歌っているのは Village People というミュージシャンのグループです。この「YMCA」という歌は、YMCA という団体を指していますが、キリスト教関連の賛歌というわけではありません。

Village People は、アメリカの同性愛グループでした。

原曲「YMCA」という歌は、同性愛者の応援歌だったのです。

歌ができた経緯はこうです。

YMCA はスポーツ施設や宿泊も提供していますが、アメリカでは、同性愛者がそこに集まることが多かったそうです。

元々 YMCA がジムや宿を提供した目的は、青少年の健全育成のためということでしたが、YMCA 側が予想しなかったゲイ・フレンドリーな環境を提供してしまいました。



Village People

ユースホステルの相部屋はゲイの巣窟になってしまいました。

原曲は「YMCA で素敵な（同性愛の）出会いを！」というとんでもない趣旨の歌だったのです。

しかしゲイをコンセプトとした曲でしたが高い人気を獲得し、全世界でのシングル売り上げは1000万枚を超える大ヒット曲になりました。

1978年西城は、ロスで聴いた Village People の歌う「YMCA.」のノリの良さに惹かれ、帰国後、「次のステージでこの曲を歌いたい」と主張します。

しかし、周りのスタッフは、ゲイを売りにした曲であることから猛反対をしたそうです。

そこでマネージャーだったあまがいりゅうじ（天下井隆二）は、タイトルを「YOUNG MAN (Y..M..C..A.)」とし、青春讃歌風に歌詞を作り替えました。

こうして完成した曲をコンサートで披露すると、ファンからは予想を上回る反響がありました。

急遽レコーディングが行われ、昭和54年2月21日、緊急発売されますが、これが累計売上180万枚を記録した西城自身の最大のヒット曲になりました。

西城の「YOUNG MAN」では、ゲイのイメージのない明るい青春賛歌としてカバーされたので、唐突に歌われる「YMCA」の意味が不明瞭になっています。

「YMCA」というフレーズは外すわけにいかないの、次のような意味を持たせました。

「♪若いうちは やりたいこと 何んでもできるのさ」と歌っています。

即ち、「Young Man Can do Anything」の略だったのです。

元を辿れば同じ YMCA（キリスト教青年会）が由来なのですが、全く違った別の意味を持っていたのです。

西城秀樹さんは昨年5月、脳梗塞のため他界されました。

葬儀の出棺の際には代表曲「YOUNG MAN」が流され、約1万人のファンから「ヒデキ！」コールを浴びながら斎場を後にしたそうです。

亀岡弘志（記）